

令和3年度
市民と語る会報告書

令和4年3月
庄原市議会

令和3年度 庄原市議会市民と語る会報告書 目次

1. 開催趣旨	1
2. 開催地区、開催日時及び参加者数	1
3. 意見交換テーマ	2
4. 次第	2
5. 班編成	3
6. テーマの懇談内容	3～21
7. 意見交換	22～27
8. その他（自由意見）	27～28
9. 議会に対する意見・要望	28～29
10. 執行者に対する意見・要望	29～30
11. 市民と語る会の検証結果	31～35

1. 開催趣旨

庄原市議会基本条例第5条第3項の規定に基づき、市民が議会の活動に参加できるような懇談会、議会報告会等を開催する。今年度より、「議会報告会」を「市民と語る会」に名称変更し、市民との意見交換に重点を置いた内容で実施する。

2. 開催地区、開催日時及び参加者数

地域	地区	開催日	開催時間	会場	参加者数	担当班	
庄原	庄原	11月15日(月)	18:30~20:30	庄原市ふれあいセンター	31	1	
	高	11月9日(火)	19:00~21:00	高自治振興センター	9	2	
	本村	11月12日(金)	19:00~21:00	本村自治振興センター	18	3	
	峰田	11月1日(月)	19:00~21:00	峰田自治振興センター	25	4	
	敷信	11月11日(木)	19:00~21:00	敷信地区民ふれあい広場	9	1	
	東	11月8日(月)	19:00~21:00	東自治振興センター	21	2	
	山内	11月11日(木)	19:00~21:00	山内自治振興センター	7	3	
	北	11月5日(金)	19:00~21:00	北自治振興センター	18	4	
西城	西城	11月10日(水)	19:00~21:00	西城自治振興センター	20	2	
	八銚	11月8日(月)	19:00~21:00	八銚自治振興センター	6	1	
東城	小奴可	11月15日(月)	19:00~21:00	小奴可自治振興センター	36	3	
	八幡	11月16日(火)	19:00~21:00	八幡自治振興センター	15	4	
	田森	11月17日(水)	19:00~21:00	田森自治振興センター	12	1	
	東城	11月11日(木)	19:00~21:00	東城自治振興センター	32	2	
	帝釈	11月16日(火)	19:00~21:00	帝釈自治振興センター	28	3	
	久代	11月4日(木)	18:30~20:30	久代自治振興センター	16	4	
	新坂	11月16日(火)	19:00~21:00	新坂自治振興センター	15	1	
口和	口和	11月5日(金)	19:00~21:00	口和自治振興センター	18	2	
高野	高野	11月17日(水)	19:00~21:00	下高自治振興センター	19	3	
比和	比和	新型コロナウイルス感染症拡大防止による各種行事開催中止のため、比和地域の開催なし					
総領	総領	11月9日(火)	18:30~20:30	総領自治振興センター	27	1	
一般会場 20会場 合計					382		
団体	比和 やまびこ会	11月17日(水)	19:00~21:00	比和自治振興センター	15	4	
総合計(21会場)					397		

【年度別開催状況】

年度	期間	開催時間	会場数	参加者数	班数
平成23年度	7月1日~21日	19:00~21:00	22	488	8
平成24年度	7月3日~20日	19:00~21:00	21	369	8
平成25年度	7月3日~18日	19:00~21:00	21	328	5
平成26年度	7月3日~18日	19:00~21:00	21	430	5
平成27年度	7月3日~24日	19:00~21:00	22	445	7(内特設2)
平成28年度	7月11日~21日	19:00~21:00	24	一般 375 特設 415 合計 790	8(内特設3)

年度	期間	開催時間（要綱）	会場数	参加者数	班数
平成29年度	7月3日～8月29日	19:00～21:00	24	一般 427 特設 426 合計 853	8(内特設3)
平成30年度	7月3日～1月30日	19:00～21:00	20	一般 255 特設 293 合計 548	7(内特設2)
令和元年度	7月3日～19日	19:00～21:00	25	一般 329 特設 256 合計 585	7(内特設4)
令和2年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止				

3. 意見交換テーマ

地域等	地区等	テーマの内容
庄原	庄原	まちなか活性化
	高	地域交通、共通テーマ①②
	本村	自治振興区の位置付け、庄原市の中心より外れた地域の将来について、共通テーマ①
	峰田	地域生活交通（乗合タクシー）
	敷信	共通テーマ①②
	東	自治振興区と市役所の役割分担、共通テーマ①②
	山内	定住対策、共通テーマ②
	北	旧川北小跡地利用、国道432号改良工事、庄原市の将来像、空き家対策・移住定住
西城	八銚	林業活性化、人口減少状況と交通事情の問題
	西城	災害、共通テーマ①②
東城	小奴可	買物弱者・交通弱者対策
	八幡	地域交通
	田森	人口減少対策
	東城	東城高校の状況、共通テーマ①②
	帝積	過疎地における高齢者対策
	久代	市道久代中央線の早期完成に向けて、人口減少対策
	新坂	生活交通・有害鳥獣対策
口和	全域	農業振興、観光振興
高野	全域	防災・災害対応、共通テーマ②
総領	全域	持続可能な地域づくり
団体	比和やまびこ会	過疎対策についての地域づくり、共通テーマ①②

※ 共通テーマ = ①かんぼの郷庄原 ②庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画

4. 次第

- (1) 受付（アンケート配付）
- (2) 開会（あいさつ）
- (3) 趣旨説明等
- (4) 意見交換及び懇談
テーマに関するもの及びその他自由意見（共通テーマを含む）
- (5) 閉会（あいさつ） ※開会后2時間を目安
- (6) アンケート回収

5. 班編成

班名	代表者 (班長)	班員	担当会場 (自治振興区 20 会場、団体 1 会場)
1 班	赤木 忠徳	福山 権二 五島 誠 藤木 百合子 吉川 遂也	庄原、敷信、八銚、田森、新坂、総領 (6 会場)
2 班	林 高正	谷口 隆明 宇江田 豊彦 近藤 久子 坪田 朋人	高、東、西城、東城、口和 (5 会場)
3 班	坂本 義明	堀井 秀昭 政野 太 藤原 洋二 前田 智永	本村、山内、小奴可、帝釈、下高 (5 会場)
4 班	桂藤 和夫	横路 政之 徳永 泰臣 國利 知史 松本 みのり	峰田、北、八幡、久代、比和やまびこ会 (5 会場)

6. テーマの懇談内容

※以下の内容は、各班から提出された報告書に基づき作成しています。(左欄：参加者の意見等 右欄：議員の答弁)

【 庄原地域 庄原地区 】	
(1) まちなか活性化	
<p>●自治振興区よりテーマ設定の趣旨説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりという視点で考えていけばと思い、「まちなか活性化」をテーマとした。 ・庄原自治振興区は市街地と川手など 33 の自治会で構成している。少子高齢化、町中の空き家が増えているが、地域が元気になるような取り組みを進めている。 ・定住促進などひとつひとつ進めていかなければと思っている。大ざっぱなテーマだが、何でも意見を出してほしい。 	
子供会への助成が少なすぎるのではないか。大きな自治会と小さな自治会が一緒というのはどうなのか。	子供会の助成は小奴可地区では地域の草刈りなど受けて入ったお金を足したりしている。自治振興区への助成は財政健全化のもと減ってきている。それに伴って自治振興区・自治会の動きが制限されるのはどうかと思っている。子育て世代が住みやすい町として大分県豊後高田市や臼杵市の施策が参考になる。18 歳までの医療費無料とか、私たちも勉強しなくてはいけない。
ふるさと納税の使い道はどうなっているのか。	ふるさと納税については、しっかり活用していけるよう委員会でも検討していく。
九日市は 20 年続いているが、もっと底入れをしてほしい。出店者だけが苦勞されている状況があり、何か援助をと思う。	
祝祭日に日の丸の国旗が掲揚されていないがどうなのか。自分の国、地域に誇りを持つため掲揚すべきだ。	
文芸の小道だけでも 5～6 件の空き家があり崩れている。ネットくらい市で張ってもらいたい。	個別対応であるが、危険家屋については補助金制度もある。行政代執行の仕組みも出来ている。情報提供し都市整備課と相談していく。
駅前整備がされたが、周りに家もなく今後どういった整備方向なのか教えてほしい。	都市計画は市のホームページに出ている。民間活力を引き出すといっても難しい。

まちなか協議会は自治振興区もメンバーとなっている。都市計画について住民と話し合える場を持ってもらいたい。	
上野池周辺の街灯が暗い。中学生も通るので防犯の意味でも対策してほしい。	通学路の関係もあるので教育委員会へ申し入れる。現状把握して委員会で研究してみる。
【 庄原地域 高地区 】	
(1) 地域交通	
免許返納者は増えている。路線バスは学生等利用以外空気を運んでいるような現状である。 維持ではなく、ニーズに対してどうやって組み立てていくか、新しい生活交通のシステムを考える時期にきている。	市民タクシーやM a a S 等はスマホの利用が必須である。スマホはもちろん、ガラケーも持っていない市民もおられる。上記の事を利用するための条件整備が必須であるため非常に難しい。地域によって課題が違うので、全体的に統一した方向で解決しなければならない。
地域生活交通に補助金がたくさん出ているが、運行形態の時間合わせ（乗り継ぎや連絡）等、例えば運行連絡協議会のようなものは存在しているのか。	乗り継ぎ等の連絡がうまく出来ていないのが現状。路線の一筆書きも出来ていない。M a a S はそれらを結びつけようとしている。実験を繰り返すことで、庄原版M a a S が出来るはずだ。参考例として舞鶴市の市民交通の実験があり、非常に参考になる。
庄原では生活交通の中心は自家用車であり、公共交通は学生等である。どうしても乗れない人はタクシーを利用している。どのように住民の足を確保するか、新たな組み立てをする時期に来ているのではないのか。	抜本的に考えていかなければならない。
【 庄原地域 本村地区 】	
(1) 自治振興区の位置付け、庄原市の中心より外れた地域の将来についてどう考えるか	
振興区を市の出先と考えている。事務仕事量が年々多くなり、高齢化も進みなり手がいない。事務員の給料も安い。地域将来像が見えない。意欲向上するよう考えてほしい。	振興区の負担は理解している。昔のように地域で支え合う精神を大切にしたい。
若者や企業は他市を選ぶ。なぜ市内(工業団地等)に働き場を増やさないのか。高齢者は医療、買い物、交通等不便。何れ市内に出ればよいという住民もいるが市はどう考えているのか。	移動販売車の取り組みは周辺部での課題であり、必要な地域での取り組みを広げたい。 米の高収入化対策等諦めないでやっていくしかない。
獣害対策が限界だ。猟友会本村にひとりしかいない。電柵等対策した所から入る。電柵補助減少で中山間地必要不可欠なのに消費多い。米価低落。所得補償もない。意欲低下し、離農が増え、手に負えない深刻さをわかってほしい。	米価下落、獣害被害による農業者意欲の低下は重要課題と認識。電柵等に対する支援や米価低下への支援、補正予算等会派要望で提出したので対策してくれると思う。里に出ないよう山に食糧を植える提案をしている。
【 庄原地域 峰田地区 】	
(1) 地域生活交通（乗合タクシー）	
現在高齢者も増え続け免許返納も増えつつある中、返納時一時的な補助制度では対応できないのではないのか。	

<p>市民タクシーもこれまで13年間続けてきて様々な問題が生じてきている。特に規定には2名以上の乗り合わせが基本と明記してあるが、実際、行きは良いとしても病院の終了時間はそれぞれがまちまちであり、乗り合わせての帰宅は難しい状況である。</p>	<p>他の地域でも同じようなことが出てきているので、交通計画を策定する時など、委員会で検討しながら皆さんのお考えを反映させていきたいと思う。</p>
<p>1名での市民タクシー利用も認めていただきたい。</p>	
<p>利用地域も明記してあるが、どこも平等に利用できるよう全地域に広げていただきたい。</p>	<p>全地域といっても、地域生活交通や路線バス等の交通機関のあるところなどは、それを利用しており、現時点では要望は出ていない。また、タクシー業者への民業圧迫という観点からも要望のある地域とすべきと考える。</p>
<p>庄原市中心地域外の地域の施設（同仁病院・備北七塚病院等）等に行く場合は、利用できないのは不便でならない。どうにかならないのか。行先によっては別料金となると聞いている。</p>	<p>ここにいる議員全員が本日の話を聞いたので、課題や要望については、ことあるごとに一般質問や委員会等で必ず話をさせていただく。</p>
<p>【 庄原地域 敷信地区 】</p>	
<p>（1）かんぼの郷庄原</p>	
<p>かんぼの件に関して、現在どういった状況なのか話してほしい。</p>	<p>（11月9日の全協で報告された内容や11月19日予定の臨時会のことなどを説明）</p>
<p>かんぼの郷庄原は、なくてはならないと思っているが、どういう運営をするのか。利益を上げないと修理もできない。観光で利益があがるのか。</p>	
<p>議会で可決した際に、運営方法の検討はあったのか。考えていないのではないのか。今更返すわけにもいかないのどうまくやってもらいたい。</p>	<p>それぞれ議員が地元等で話を聞いて判断した。市民で盛り上げていく方向となっている。</p>
<p>33,000人の市で宿泊施設がないのは困るので残ってよかった。商業と公的な2面、温泉・宿泊・地域行事、どこを中心にやるのか。誰が考えるのか。</p>	<p>執行者は、指定管理は公募にするのかサンヒルズにするのか、曖昧な返答であった。</p>
<p>運營業者は、儲からないと言って逃げ出さないでほしいので、サンヒルズでよいが、あと3か月で何をどう修繕するのか。もう公募する時間はない。</p>	<p>温泉ボイラーは郵政が修繕することになっている。</p>
<p>日帰り客がいくら来ても儲からない。</p>	<p>かんぼという縛りがなくなるので、PRや他の行事、施設とタイアップできる。今まで出来なかったことが、出来るようになってくる。</p>
<p>取得してから修繕するが、方針がないのにどこを修繕するのか。</p>	<p>最低限の部分を修繕する。</p>
<p>（2）庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画</p>	
<p>統廃合問題は、「統合しない」と言った者の勝ちなのか。小規模校を残すのなら、他の学校も少人数クラスをしないとおかしい。</p>	<p>教育民生の委員会でよく考える。</p>

<p>板橋小学校は統合の対象外だが、それ以前に、地域の子供が地元の保育所に入りたいと希望しても、入れない状況があるのはおかしいのではないか。板橋西は、庄原小学校へ行く子と板橋小学校へ行く子が同じ通学路で行き交っている。</p>	<p>未満児を市の全ての保育所が受けていないので、受け入れがある数信みのり保育所に地域外から入所している。そういったのが原因ではないか。</p>
<p>自治会に入っていない家庭があり、子供会や自治会の運営が難しい。</p>	<p>(小奴可地域の保育所の現状説明) 他の地域の子供も地元の子供として行事を行っている。保育所の定員は法律で決まっており、0歳児の入れるところも限られている。</p>

【 庄原地域 東地区 】

(1) 自治振興区と市役所の役割分担

<p>●自治振興区よりテーマ設定の経緯について説明 当初、自治定住課が窓口であったが、市役所から振興区に対して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課からそれぞれ、突然に(短い期限付きの)課題、仕事を持って来られる。 ・振興区としても、住民の皆さん、役員の皆さんに多大な負担をかけている現状である。 <p>そのため、研修会議や分科会等、出席すべき会議等が多くあり、自治会の中に入りしっかりやっていくことが難しい。自分の所属している地域が第一だと考えているが、上記のことがあり、忙しく手が回らない。皆さんに広がっていくのは難しい。</p>	<p>どことも同じような悩みがある。意思疎通を日常的に行わなければいけない。</p> <p>基本は住民自治。自主的に決めてやる事よりも市からの依頼が多くそれが出来ていない。</p> <p>もう一度自治振興区とはなにかを考え直さなければならない。</p>
<p>市役所職員は減っている。一人の抱える仕事が増えている。議会としてのスタンスは。</p>	<p>本年9月の決算審議分科会で、教育民生常任委員会主査から職員の多忙化について主査報告がなされている。</p>

【 庄原地域 山内地区 】

(1) 定住対策、庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画

<p>てごし隊や地域の方で定住対策し、家族連れの移住の実績も多数ある。学校があるから来てくれている移住者もあり、高齢化が進む中、地域の希望を失ってほしくない。</p>	<p>地域振興のためだけに計画反対しているのではなく、子供のことを想って反対しているのがよく分かった。</p> <p>地域の合意がなければ計画は進められない。教育委員会もそう言っている。</p>
<p>定住対策に対する市長の想いが聞きたい。一身上の都合で離職した教育長再任は議会軽視ではないか。</p>	<p>教育長は誰になっても地域と協議すれば大丈夫。教育委員会との協議拒否は良くない。子供の不安になる。市長と教育長の懇談も議会が要望すべき。令和になり新たな教育環境も考える必要性がある。</p>
<p>期限、人数、統合ありきでやってきた市教委だが、今後は地域の意見をしっかりと理解してよいか。田園回帰で庄原はチャンスだと思うので、自然学習とネットの教育環境で選んでもらえる。</p>	

【 庄原地域 北地区 】	
(1) 旧川北小学校跡地利用	
<p>きのくに子どもの村学園（和歌山県）から、休校施設の利用の話がきている。現在、きのくに学園は全国に5か所あるが、新たな私立小中一貫校としての話が進んでいる。これから立ち上げの協議会を作り進めていくことになるが、旧川北小学校を使わせていただきたいと庄原市へお願いにはまだ行ってない。</p> <p>地域住民の賛同を得なければ話を進めることはできない。水後小学校の時は、地元の方々が寂れるのが悲しいとの思いがあり、さくら学園が校舎は無償で、グラウンドは有償で借り受けて活用している。</p> <p>現在は地域に周知をしている段階だが、なかなか進まず、噂だけが独り歩きしている。どうしたら知ってもらえるか、いい方法を教えていただきたい。</p>	<p>アンケート、ポスティング、常会・会合へ行って説明、全戸説明に歩くのが一番だと思う。</p>
<p>地域からの休校施設の使用について提案があった場合、スムーズに利用しやすい仕組み作りを議会として、していただきたい。</p>	
<p>何かをしようとされる方がおられたら、議会として後押しをしていただきたい。</p>	
(2) 国道432号の改良工事	
<p>国道432号は、道幅も狭く歩道もない危険な道路となっている。以前は道路改良の話も出ていたが、いつのまにかたち消えになっている。子供たちも通学していて非常に危険である。大雨時には掛田側の護岸が高く、川手側は危険であり、護岸を含めた早期の道路改良をお願いしたい。</p>	<p>どう改良したらいいか良い案が見つからない。現在は地元地域からの要望、声もあがってこない。難しいと思う気持ち。</p>
<p>学校の登下校時に使っている。子供たちを事故から守れるのか心配でならない。</p>	<p>何とか方法がないか検討してみる。</p>
<p>道幅も規格に合っていない。本当に怖い。</p>	
(3) 庄原市の将来（将来像）	
<p>かんぼの郷庄原の購入取得について、どういったスケジュールになっているのか。</p>	<p>委員会に説明があった。名称は現在募集している。4月にはオープン予定である。</p>
<p>サンヒルズありきではいけないのではないのか。公募して指定管理者を選ぶべきではないのか。</p>	
<p>かんぼを取得されたのは市民のためになるのか。それとも外部から人を呼び込むためなのか。市民にメリットはあるのか。</p>	
<p>おいしいものを出さないとだめだと思う。</p>	
<p>入湯料が高すぎるので安くする必要がある。</p>	

どこから取得のお金が出てくるのか。収入が上がるものがないとやっていけないのでは。地方交付税だけでこれから本当にやっていけるのか。	20年はやっていきたくと執行者部局は話している。
年間600人も人口が減り続けている。どうなるのか。	選択と集中しかないのではないか。優先順位をつけて絞っていくしかないのではないか。
(4) 空き家対策や移住定住	
空き家バンクについて、市の担当課には毎日3件位は問合せが来ていると聞かすが、早く対策しないと空き家はどんどんと使えなくなってきた。	山内は高齢化率47%で、山内小学校も現在60人になっている。私(國利)は諦めていない。てごおうし隊(現在、県大生16名も含め)110名で活動している。内容は、空き家の管理について家主の方と話を片付けを手伝ったり、草刈、移住者のサポートなどをやって子供たちに山内の良さをアピールしている。イナゴを食べる会などを開き、地域と移住者との橋渡しをしている。そうした繋がりを作っておいて、移住して来られた時にはすでに知り合いになっている、といった関係を作っている。 移住者が噂話で山内の良さを広げてくれている。移住者が移住者を呼ぶ、そうした事になりつつある。その結果、移住者も39名増え、子供も20名増えている。こうした活動が広がっていけば良いと思う。
庄原の企業は人手不足で悩んでいる。働く人がいない状況である。働く場所がないから移住が難しいと言うのが不思議。	マッチングが上手くいっていないのではないか。人口問題を考える会の提案がほとんど活かされていない。
都会では食べるのもしんどい方も多いと聞く。私は会社をやっているが、企業基金を作って、移住してくる方の援助や田舎へ来てもらう仕組み作りが必要だと思っている。	
移住したくなる環境作りが必要なのでは。特に林業関係はこれから伸びてくるので、人を呼び込むことができるのではないか。	
【 西城地域 西城地区 】	
(1) 災害	
災害についての復旧情報を見ると、西城だけが対応が遅く感じる。西城のあらゆる場所が土砂災害危険地域になっている。いつ大規模災害が起こるかかわからず、不安である。蓮照寺の周辺、山などが崩れると主要道路が寸断されることが予想され、非常に心配である。この辺りの土の状態を調べてほしい。一時避難所の場所など、わかりやすいように説明してほしい。	庄原市としても一生懸命やっているのだから、理解をお願いしたい。 蓮照寺関連については、県や県議にも伺いを立てている状況で、徐々にではあるが前に進んでいるはずである
指定避難所、一時避難所については、地域の集会所などを利用したいが、土砂災害危険区域であるので出来ない。振興区で避難所等の周知を行っているが、毎年市役所から説明に来てほしい。	以前配布した防災マップには家ごとの避難方法が記載されるなど、非常に細かな指示が入っており、各戸に配布しているので、まずはその確認を行ってほしい。

<p>平成 30 年豪雨時、対応した市職員が少なく、職員がてんやわんやしていた。</p> <p>現在も市の職員は臨時職員が増えてきている。地域の事（地理を含め）がわかる人、専門的な事がわかる人が少なくなっているのが問題だと思う。市職員全体に対する臨時職員の割合のデータを提示してほしい。</p>	<p>9月に議会で決算審査があり、職員が足りてないと声を上げる議員が多いた。</p> <p>人口が減ると、課題が増え、結果的に職員一人あたりに対する仕事が増える。</p>
<p>【 西城地域 八針地区 】</p>	
<p>(1) 林業活性化（川下機能（製材工場等）の市内展開）</p>	
<p>山林資源の有効活用を図りたい。</p>	
<p>提案として、木材の製材工場を庄原市内に展開したい。八針地域にはポテンシャルの高い森林資源がある。期待する成果としては、地域経済への貢献、高付加価値事業の取り込み、ブランド材（比婆材）の生産地 PR 促進、廃材利用でバイオマス発電。</p>	<p>山主にお金落ちていない。最終小売価格と山主に入るお金の乖離が大きい。伐採後また植えようというサイクルが回らないのが今の林業の現実だと思う。</p>
<p>50 年スパンでお金をかけて育てた木の価格が低い。木の価値を高める以外ないと思っている。原木だけ流しても買い叩かれるだけなので比婆材としてのブランドを確立するために材木工場を一から作って価値を高めるしかない。</p>	
<p>大工さんに聞くと日本の材は、乾燥技術が未熟。</p>	
<p>収入間伐をしても山主に返ってくる割合は 1 割くらい。</p>	<p>50 年前に、将来ひと財産になると植えて管理してきた木が買い叩かれて、よそへ富を奪われているのが現状だと思う。市内に製材屋がないのも確かに大きな問題だと思う。</p> <p>若い林業家とも話をするが、庄原産材に価値を見出す消費者を育てる必要もある。</p> <p>自伐型林業というやり方もある。しかし、山の所有形態も、たくさん方の共有であるという現状を考えると、難しいところがあるのかなと思う。</p> <p>軸組工法から壁体工法に変わったところから木の値段が下がった。島根県では、内装材、床材、内壁材に用途を転換することで、生き残りを図っている。国立競技場が木材を使っている。木にガラス繊維を染ませて強度を高めている。その技術を長岡木材が取り入れており、新たな方向性を出している。大規模の製材をやろうと思えば、必ず中国木材と競争になる。資本力が強い者が必ず勝つ。京丹後市では、4メートル以上の特殊材で利益を上げている。利益を上げるには正面突破は難しく、特殊材等といった方向性の転換が必要である。そういうことをやっているところもあることをご紹介させていただいた。</p> <p>輸入制限がかかっていて、輸入材の数が減ってきている。もう 10 年くらい待てば、輸入材の不足により国産材の需要が増えて、森林資源が非常に有効に使えるのではないかと考えている。</p>

	いま全伐するのはもったいないと思っている。
いまは無節より節がある方が価値がある。	
山主が無関心になっていると思う。山主が山に興味を持つような、そのあたりの対策も立てる必要があると思う。	
庄原の比婆材をどのような方向で売り込んでいくのか、行政、議会、森林組合、専門家で話をさせていただいて、アサヒの森なども巻き込んで、方向性を出してほしい。	議会としても、現状認識してから考えるようにしていきたい。研究してみたいと思う。
(2) 人口減少状況と交通事情の問題	
人口減少について、振興区発足以来ほぼ半減している。	
<p>交通問題への対応は人口問題の改善に避けておれない。八針と西城を結ぶ生活交通の利用状況は少ない。空気を運んでいるような実態であり、効率が悪い。市内の一部で運用されている乗合タクシー、市民タクシー、こまわりくんも含め、良い方法を考えるタイミングにきている。</p> <p>個人をどう運ぶのか考えてほしい。できればタクシーにしていきたい。タクシーだとオンデマンドで前もっての予約とかいろいろな制約が出てくる、と市から聞いている。</p>	<p>西城の交通体系は庄原市の中で一番恵まれている。一番厳しいのが東城。東城は早くからタクシーを利用する形で、自治振興区が窓口になって取りまとめている。自治振興区の取りまとめ事務が非常に大変。西城でもタクシーをやっているのが八鳥地域。東城ではMaa Sという、ハイエースクラスの車両を利用して3年間の事業を行っている。これが乗合バスの代わりになるものかどうか我々も注目している。乗合バスは最後の砦だから、これをなくしてはいけない、というのが議員の考え方。</p> <p>タクシーの乗合が正式に国で認められた。自家用車の維持費の一部を削って、生活交通に充てていいという合意が地域の中で出来れば、市の補助金と住民負担とを合わせて、乗合タクシーのシミュレーションをしてみたら面白いかもしれない。</p>
<p>バス会社があることがネックになっている。バス会社があるからタクシーも認められない。公共交通機関があるから無理というのが市の考え方だった。タクシー一本化してほしい。タクシーにするなら、住民も身銭を切って、自家用車にかかるお金を削らないといけないと思う。足りないところを補助金でサポートしてほしい。</p>	<p>小奴可では市民タクシーを設定している。自治会が事務局になっている。公共交通機関があるから市民タクシーが利用できないというのは、整合性がとれないかなと思う。</p> <p>大阪での画期的な事例として、地域の全住民が月に500円の負担金を払って、地域交通を維持したという例があった。もちろん行政もお金を出す、みんなで負担し合うということはひとつの大きな方向性という気がする。</p> <p>交通権は基本的人権ということになったので、庄原市も財源の一定程度は公共交通にストックすべきという議論も始めている。市民の負担も、議論としては進めていけばいいと思う。</p> <p>福祉サービスの送り迎えは事業に当たらないので白ナンバーでも大丈夫。生活交通の新しい動きとしては、農協や農業生産法人が緑ナンバーに代わるような許可をとって、有償で輸送をする動きも出始めている。自治振興区が乗合タクシーをすることも、国交省が許可している事例もある。外国ではウーバーのような自家用車での運送形態もある。</p>

<p>なんでもかんでも振興区になっている。我々にはノウハウがない。情報もない。人口減少で地域が疲弊している。地域の役員の顔ぶれも昔から変わってない。ひとりが3つも4つも役を持っている。そんなことで地域は回らない。パソコンが使えない高齢者も多い。全部地域にやらせるのは無理。せめて生活交通は行政の責任で整備すべき、自治振興区で何とかする話じゃない。費用対効果の問題じゃない。生活交通だけはなんとしても必ず確保してもらいたい。</p>	<p>予約乗合タクシーを推し進めて、路線バスについては、なくすわけにはいかないけれど、縮小の方向にしていくというやり方のほうが、住民の利便性に寄与すると思う。そういう話でも市長とできたらと思う。既にバス会社があるし、タクシー会社も3社ある中で、民間業者の方とどう共存していくかをしっかり考えて、予約乗合タクシーの大きな流れをつくっていくのいいのかなと皆さんの話を聞かせていただいて思った。民間業者と共存する仕組みをどうつくっていくかを議論していく必要があると思った。</p> <p>デンマークでは、退職した公務員に3年間公共交通の運転が義務付けられていて、一日運転するとポイントがもらえる。3年間ポイントをためると今度介護を受けるときにそれを使える。</p>
<p>せっかくの話し合いだったので、西城町の3人の議員、西城支所、自治振興区が集まって地域交通を考える会議を発足させたいと思った。</p>	<p>非常に良い提案。我々が提案するのではなく、自治振興区が連合会で提案していただければ、我々はその中にはいることができるし、行政も入ることができるので、任意の団体としてつくっていただければ大きなうねるになるかもしれない。</p>
<p>【 東城地域 小奴可地区 】</p>	
<p>(1) 買い物弱者・交通弱者</p>	
<p>西城病院から小奴可のバス、行きは乗れるが帰りは乗れない。芸備線も乗れないダイヤで、乗客が乗れるようにするのが当たり前だ。弱者の事を考えてほしい。生活交通の利便性に欠ける。</p>	<p>バスが空気を運んでいる話がどこの地域も多い。見直しが必要。持ち帰り担当課へ繋ぐ。</p>
<p>高齢者サロンは運転出来ない人、移動販売を非常に楽しみにされている。定期的に来てほしい。売り手主導で欲しいものがない。買い過ぎて捨てる心配も家族はある。要望を聞いて売ってほしい。</p>	<p>移動販売は採算が取れないと聞いている。個人宅への予約注文が出来ればもっと良いと思う。生協の利用率も高い。人件費等上乗せした金額での販売や見守りを兼ねた買い物弱者のために行政支援や仕組みづくりを市へ伝えたい。</p>
<p>高齢者のスマホの保有率が高いので、ネットの買い物をアプリ作成等社会実験するようなことは出来ないか。</p>	<p>本人がわからない物を買う可能性ある。連れて行って選ぶ楽しみもある。市がやっても赤字が続くと長続きしない。移動販売車が走っていない地域からの声もあるので、ニーズを伺いたい。</p>
<p>【 東城地域 八幡地区 】</p>	
<p>(1) 地域交通</p>	
<p>現在、この地域は地域交通として備北交通のバス路線と、地域生活バス廃止に伴い市民乗合タクシーになったが、規定により、森地域の一部しか利用できないため、20数名の登録者で運用されているのが現状である。しかし高齢化も進み、備北交通路線のバス停まで行くのが難しい現状となってきている。</p>	

<p>現在運用している市民乗合タクシーは、病院の終わる時間が違ったり、同乗される方の人間関係とか難しい問題も多い。規約の変更など利用者のニーズにあったものにしていただきたい。</p>	
<p>本日はこの会が、八幡地域における地域交通の一番いい方策を探る会になれば良いと思う。</p>	<p>本日しっかりとご意見を頂いて、持ち帰り、委員会等で議論させていただく。</p> <p>資料を見させていただくと、この地域の市民乗合タクシーの利用度は他地域よりも、よく利用されている方だと思う。このことも参考にさせていただく。</p>
<p>バス停から 1 キロ以上といった縛りがあるが、それを短く規定の変更をすることは出来ないのか。そもそもどういった基準で 1 キロ以上になったのか伺いたい。</p>	<p>持ち帰り、担当に聞き議論していく。</p>
<p>八幡地域で市民乗合タクシーの条件に合う家は少ない。750 件の内 20 件ぐらい。</p>	<p>デマンド交通によるドアツードアの方向にいけば、一番いいと思う。</p>
<p>八幡のことは八幡の方が一番よく状況が分かっているので、学生のことも考えながら、いい方法を考えていかないといけない。</p>	
<p>市民タクシーを他の地域も利用できるようにしてほしい。備北交通を廃止しても仕方ない。出来ないことはないと思う。</p>	
<p>ぼんぼこ山保育園に関わっているが、児童の家まで送迎することにより、利用する方が増えた。</p>	
<p>空のバスを走らせるより、家で作って余った野菜等をバスに積んだりできないのか。給食センター等に運び地元の子供たちへ食べてもらうと言うことは出来ないのか。</p>	<p>私も以前野菜の集荷等に関わっており、そうした考えもとてもいいと思う。高野の道の駅と中国 JR バスがそうしたことをやっているの、出来ないことはないと思う。</p>
<p>昔はバスへも荷物だけ乗せていたが、今はどうなのか。</p>	
<p>地域交通のニーズも変わってきている、地域のニーズに合った方法に変えていただきたい。</p>	
<p>主要幹線には路線バスで、地域内はタクシーとか小回りがきく方法がいいのではないかと。観光で来られた方にも、八幡駅で降りられても次に乗る交通機関がないと来てもらえないと思う。地域の足だけではなく、観光においてもその繋がりが大切だと思う。</p>	<p>色々な手段を網羅し、つないで、今後の検討とさせていただきたい。</p>
<p>道路の整備もしなければ、地域交通だけの話ではいけない。</p>	<p>交付税には限度がある。メリハリをつけて改良をすすめていく。</p>
<p>除雪のこともあるので、早期に改良していただきたい。</p>	<p>業者が全盛期の半以下になっている、その影響もあり道路改良が遅れている。</p>
<p>西日本豪雨災害で水路に水が来ない状況が続いており、工事も遅れ、発注すらできていない。百姓をやめなくてはいけなくなる。</p>	<p>それだけでなく、米価も下がり農業意欲が下がってきている。</p>

【 東城地域 田森地区 】	
(1) 人口減少対策	
<p>●自治振興区より現状報告</p> <p>① 自治振興区活動の重点事業 ② 人口動態 ③ 何が起きるのか ④ 他地域に学ぶ</p> <p>⑤ 誰が、何を、どうするのか（資料添付）</p> <p>●山内・小奴可・口和地区の人口減少対策の取り組みを議員から紹介</p>	
<p>インターネット環境によって田舎や都会という感覚がなくなっている。自治振興センターの Wi-Fi は使えない。フリー Wi-Fi もなく、ネット環境の整備が必要である。国・県へ予算要求をしてもらいたい。</p>	<p>自治振興センターの Wi-Fi は申請が必要だったり使いにくい。これまで一般質問でもしてきたが、使い勝手の良いものにしていきたい。</p>
<p>人口減少問題、自治振興区での取り組みには限界がある。自治体で定住促進の取り組みなど特化して進めていくべきだ。提案として土地建物は庄原市が提供、20 年間住んでくれれば 800 万円位補助するということなどどうか。議会で調べて取り組んでほしい。</p>	<p>子育てを田舎でしたいという人は増えている。医療・教育が整っていると良い。地域から学校が無くなると人は来ない。あきらめないことが大切。今後子供達の教育環境を整えなくてはならない。</p>
<p>根本は国がお金を出さないことだ。学校の統廃合や職員数の減などに繋がり、サービス提供が低下していく。職員を増やしサービスが向上すれば人口も子どもも増える。正しい主張をして軌道修正していくべきだ。農林業は大切だが、頑張っているのは 6 5 歳以上で、今後担い手がなくなれば米の供給もなくなる。視点を置いて守っていくべきだ。</p>	
<p>大きい学校という方向になっているが、全国的に小規模校が多くなっているのも事実。小規模校の良い実践例も出ている。少ないとダメという方向はないと思う。</p>	
【 東城地域 東城地区 】	
(1) 東城高校の状況	
<p>東城高校がなくなったらどこに行けばよいのか。経済的な理由で東城以外の高校に通わせることが出来ない家庭は、高校進学を諦めるほかないのか。</p>	<p>議員としてなにができるか、を考えなければならない。通学費のことであるが、現在庄原市ではかかったバスの運賃の半分が補助として出ることになっている。これは、議会から提案して出来たものである。強い意見をもらえば、議会としても動いていくことができる。</p>
<p>東城地域に高校がなくなったら、東城はどんなにさみしくなるだろうか。子ども一人一人の進路実現を果たしてほしい。</p>	
<p>東京をはじめ、各地に東城高校同窓会が存在している。それぞれが東城高校の今後に関心を持っている。それらの、各地に羽ばたいた先輩の話を聞く機会があつてよいのではないだろうか。</p>	
<p>中学校保護者に現状を知ってもらえれば、進路に選んでもらえるのではないだろうか。</p>	
<p>進路を決めるポイントはいくつかあるが、高校を選択するタイミングで声をかけられているか。進路の先生とコミュニケーションをとれているのか。高校に進学した先輩から東城</p>	

<p>高校で良かったと言う声が伝わっているのか。学校の色作りをして、前出しにしてPRをしていかなければならない。</p> <p>東城高校で良かったという選択肢であることをわかってもらうことも大切である。</p>	
<p>【 東城地域 帝釈地区 】</p>	
<p>(1) 過疎地における高齢者対策（市民交通・介護・Uターン施策・農林業の後継者対策）</p>	
<p>安心して免許返納出来る仕組みづくりをしてほしい。足がないと動けない高齢者は返納したら地を離れ、人口減少になる。バス実験事業の利用が少なく、やめられるのが怖い。残してほしい。神石高原町市民タクシーが良い。</p>	<p>神石高原町ではふれあいタクシーや免許返納者対策も良いことをされていて、個人的に調査している。委員会でもやっていきたい。</p>
<p>土曜日は備北交通のバスの運行がない。クラブ活動等子供たちに他の子と同様に生活させてあげたい。観光の面でもバスはガラガラでJRとはリンクしてなく、路線バスの旅など企画してほしい。ほろかカードをチャージする場所が帝釈地区にはない。</p>	<p>ほろかのチャージ場所を増やしているところだ。以前は子供が通学に使っていたバス、近年は子供減少で乗車少ない。地域交通調査でカバー率94%とあるが数字を素直に受け止める訳にはいかない。今後も市へ伝えていかなければならない。</p>
<p>農林業の後継者対策として小規模家族経営農業の支援をしないと米作りをやめるしかない。耕作放棄地は年々増加する。国は大規模農業者の補助ばかりで、該当しない施策を市で頑張ってもらってほしい。市民ほとんどの人が当てはまると思う。</p>	<p>どこの地域でも米農業者支援の話が出る。持ち帰り、議会、委員会でも話したい。</p>
<p>【 東城地域 久代地区 】</p>	
<p>(1) 久代中央線の早期完成に向けて</p>	
<p>●自治振興区よりテーマに関する説明</p> <p>総延長約5kmの市道久代中央線は久代地域を南北に縦断し、その中間地点に久代自治振興センターがある。災害時の市の指定避難所でもあるが、避難途中は落石や谷からの土砂・流水など、避難が難しい状況である。路面も大型車両の通行により痛みが激しい。平成21年7月の説明会では約1300mの工事の延長は早期にするとあったが、現在92.6mと計画区間の7%しか進んでいない。このままいくと十数年の期間がかかってしまう。どうか早期に進展する方法はないだろうか。</p>	
<p>3～4年前の災害では自治振興センターまで行けない状況になった。高齢化率50%を超えるこの地域で非常に不安でならない。何とか早期完成はできないものか。このままでは誰もいなくなってから完成ということになってしまう。</p>	<p>毎年要望はされているのか。</p>
<p>東城支所で開催される市政懇談会では毎年要望してきた。回答は一辺倒で同じ回答しか返ってこない。あわせて市長には事あるごとに思いは伝えている。</p>	
<p>1日に1回、町まで買い物等に出る。高齢の運転者も多く、大型ダンプも通るため、車でバックをしないと行けないので非常に危険で困っている。</p>	<p>この場の3人の議員が企画建設常任委員会に所属している。これまで要望されている切実な思いを受け、議論の俎上にあげていく。</p>
<p>計画が上がって20年以上経つが、市道改良でこれだけ長い期間がかかっている事例はあるのか。全体の進捗率はどうか。</p>	<p>調べて後日自治振興区へ伝える。</p>

(2) 人口減少対策の取り組み	
<p>全国的な問題ではあるが13年間で約300万人が減っている。広島県の人口以上が減少したことになっている。このままでは久代地区においても集落機能を維持することが難しくなっている。このような状況をどのように考えておられるか。</p>	<p>9月の一般質問で人口減少対策について、子育て支援や学校の統廃合などオール庄原での取り組み、そして庄原市の魅力を感じて庄原に来ていただくような仕組みが必要でないかと質問した。市長からは、人口減少対策戦略本部及び人口減少対策戦略プロデューサーを設置し取り組みを進めているとの答弁であったが、市民の声をよく聴いて考えることが大切だと思っている。</p> <p>そして高校生までの医療費の軽減化、交通費の助成などの子育て支援施策を広げていくことが必要と考える。</p> <p>川北地域では私立の小中一貫校誘致の話が出ている。口和地域は自治振興区が中心となってIターンを進め、移住後のアフターケアも行っている。久代にも住める空き家があるのでは。</p>
<p>久代の空き家調査を行っており、住めそうな空き家が11件ある。住める空き家はあるほうだと思う。</p>	
<p>なぜ口和地域は移住が多いのか。口和に移住された魅力を教えてほしい。</p>	<p>土地の良さと人の温かさ、人との繋がりなどトータルで決めた。</p>
<p>以前島根県の海士町へ研修に行ったが、高齢者より若い人にお金を使うと言われていた。</p>	
<p>庄原市は老人会補助金は減額されていない。そこにまわすより人口減少対策等にまわしていただきたい。</p>	<p>庄原は何もないけつまらんのおといった話や、大人の口からそんな言葉が出るのがどうかと思う。庄原が好きだと子供たちに思ってもらえるように、大人が伝えて発信していく必要があると思う。</p>
<p>久代地域も県道の草刈りや福寿草の保存、イルミネーション、花火の打ち上げなどの取り組みをして補助金に頼らずに頑張っている。</p>	
<p>庄原市全体で若い人たちが集まる場が必要ではないか。</p>	<p>これは重要な提案である。</p>
【 東城地域 新坂地区 】	
(1) 生活交通	
<p>●自治振興区より</p> <p>・小さな振興区で高齢化率59%。少規模であるが、やれることをやっていくという姿勢で取り組んでいる。</p>	
<p>今回の試行運行に不便を感じている。事前の申し込みがないとダメと言われていたり、申し込むと希望日は予約でいっぱいと言われたり。タクシー会社からは「予約がなくてもよい」と言われたりした。</p>	<p>支所は市民が使いやすいようにしていかなくては。</p>
<p>東城の街中を走らせているバスは、乗客がなくて走っている。こちらに回してほしい。議会も行政も後追いでなく、前もって行動してほしい。</p>	
<p>定期便が必要で、乗りやすくしてもらいたい。月水金では少ない。</p>	

事例として、生活バスがなくなって乗合タクシーになったが、利用を拒んで、普通のタクシーを使われていた人がいた（東城市街地往復7000円程度）。申込が不要ならよかったのに（申込不要なら乗合タクシーを使われたのではないか）	MaaS 実証実験が始まっているが、予約ができなくなると難しい。新坂として、こういった形がよいのか、地域でしっかり話し合い、提案してもらいたい。
生活バスと乗合タクシーの両方があれば良いと思う。	
ある日突然中国バスが廃止され、生活バスも切られた。公平な行政を行ってほしい。	予算と利便性との整合性を取っていかなくてはならない。
電源立地交付金を有効的に使ってほしい。	
雪が降って予約できなかったこともあった。希望者には1名の定額制があっても良いのではないか。	
（2）有害鳥獣対策	
サル駆除の専従を増やしてほしい。地元はロケット花火などを行っているが、慣れてすぐやってくる。銃の音だとしばらく来ない。巡回も増やしてほしい。農業を辞める人が増える。人間を中心にやってもらいたい。	サル対策の専従が3名いて、連絡を受けたら追い払う対策などを行っている。
イノシシ対策の柵は最大6万円、せめてかかった経費の9割ぐらい補助してもらいたい。	
【 口和地域 口和地区 】	
（1）農業振興（WCS・米価・集落法人の現状と将来性）	
年々少子高齢化、人口減少のなかで担い手が少なくなっている。荒廃する農地が増えていき、高齢化により手が行き届かない。本年は米価が安かった事もあり、意欲がなくなってくる。 今年、法人など2つ立ち上がったが、地域は高齢化してくるので、5年10年先どうなるのかが課題ではないか。	生産物直接取扱制度（？）を導入しないとだめだと考えている。皆さんなんとか頑張っているが、ギブアップ寸前。これといった正解がないことにイライラしている。 個別保証制度の復活を国がやっていくのが必要。議会としても意見をあげていく取り組みをしなければならないと私自身は考えている。 米が余っているのなら政府が買い上げて困っている人へ。外国へでもODAでやるなどを含めて政府がやらないと解決しない。輸入米もやめればよい。そういったことを12月議会であげていかなければ。
WCSについて、補助金があるのが（支給される時期が）遅い。11月中に入金出来るようにならないか。 WCSをつくっているが利益が出ない。稲作等の農業を細々と頑張っている人たちが続けられ、報われ、救われるようにしてほしい。	
米に関して補助金（持続化給付金など）も全然申請出来ない。地域の人は希望を失っている。（口和に）法人が出来たが、個別の農家はなくなる。地域の潤いにはつながらないのではないか。 今後のことを執行者を含め、市民、議員と話し合いをしていきたい。	

<p>有害鳥獣について、市の対策補助金はぜひ今後も続けてほしい。（駆除数も増えているので）</p>	
<p>鳥獣対策（電牧、メッシュ購入等）の補助金の出し方について、メッシュと電牧同時購入の場合は補助金ができる。同時でない場合、後から出ない扱いについて踏み込んで考えてほしい。</p> <p>農業をする喜びを感じられるような政策を、兼業農家でも（帰ってでも）やれるようにしてほしい。</p> <p>昭和の時の兼業農家に対する制度のことも勉強してほしい。</p>	<p>補助金制度に関しても、なぜダブルスタンダードにしなければならないのか。林業振興課に行って意見交換するが、決め手という有効な対策はない。</p> <p>自分たちの地域では、バッファゾーンというものを山の田んぼに面したところに設けて試験している。今後はイノシシが嫌う漆の木を地域で森づくり県民税を利用してやってみよう計画している。（中山間の集落機能強化加算を利用する）</p>
<p>農業の話は1時間半では出来ない。もっとじっくり話を出来るように時間設定するべきだ。</p>	
<p>鳥獣対策について、シカ、クマ（保護対象）の防除・駆除の議論は市議会では現状どうなのか。</p>	<p>議会での議論は具体的にされているとはいえない。議会では出ていないが、執行者の中では議論は進んでいるのではないか。</p>
<p>(2) 観光振興（鮎の里公園・モーモー物産館の現状と将来設計）</p>	
<p>ほたる見公園（平成4年～）が老朽化している。当時のキャンプの形態から現在は変わっている。再整備できないか。</p>	
<p>公園の指定者管理を自治会で受けている。（140万円/年）</p> <p>施設内は年数が経っていて老朽化しているし、整備も追いつかない。イノシシも川を泳いで上がってくる。電牧をする要望も、危険なため必要なところ出来ない。対応が遅れている。</p> <p>計画的に進めてもらいたい。要望を出しているが、予算がつかないといったように良い返事がもらえない。お客さんのためにも指定管理をうけているが、これでいいのかと思うこともある。</p>	
<p>これまで「市で器はつくるが、中身は頑張ってる」というスタイルでビジネス性に欠けていた。</p> <p>ハードを作るだけではだめだ。庄原市の経営については、広島県の中でも下の方で赤字である。指定管理も、今回は手を上げてやられるので大丈夫だと思うが、（市が指定管理者に対して）保護、保護、保護では商売は成立しないのではないか。</p>	<p>企業感覚があり、きちんとした者が指定を受けて運営をしていく。市として安易に箱物を作り過ぎるという意見も頂戴していることもきちんと考えていかなければならない。かんぽの郷も、より慎重に決めていかなければならないと考えている。</p>
<p>今回のような雰囲気ではない話し合いの機会を持っていただければお願いしたい。</p> <p>モーモー物産館・ほたる見公園は同じ地域に関わりもある。以前経営がうまくいかなかったので変えていかなければならないことから、現在、いろんな方が意見を出し、思いを出し、やろうと思えば取り組みかけると、市に前例がない</p>	

<p>と言われる。</p> <p>以前からのものを踏襲する制約があるのだが、それを踏襲したうえで、と申し上げてそれが通らない。例えば自主事業部分で利益が出て、指定管理料へ戻していくと伺った。それでは元気が出ない。従業員費などは出ていないので、ほぼボランティアで行っている。アイデアなどを拾っていただいて、自由に出来るようにしてほしい。市の施設だから制限が多過ぎる。管理の在り方、運営のやり方を見直していただきたい。</p>	
<p>【 高野地域 高野地区 】</p>	
<p>(1) 防災・災害対応</p>	
<p>7月豪雨で避難者数が過去最多。個人情報保護で避難所間の避難者情報がわからず安否確認出来なかった。毎年防災訓練しているが大変だった。情報開示してほしい。</p>	<p>行政は個人情報の取り扱いには慎重。地域自主防災組織の強化が大切。防災備品購入や防災士取得への補助金もあるので、活用してほしい。</p>
<p>田のけたがあちこちで崩れた。自分で直した人に補助してもらえないのか。</p>	<p>補助金もあり、個人で対応された場合は対応出来ない。行政に相談して対応してもらいたい。</p>
<p>近い議員に聞き、市に被害届を提出対応してもらい、浸かった機械をすぐ対応してもらった。知らない人が多い。知っていたら得、知らなければ泣き寝入りでなく、市民に知ってもらえるようにしてほしい。</p>	<p>HPを見れば分かる行政は言うが、見れない人もおり、もう少し分かりやすい情報開示が必要。わかりやすくするようLINE アプリ導入等一生懸命やっているの理解いただきたい。</p>
<p>【 総領地域 総領地区 】</p>	
<p>(1) 持続可能な地域づくり</p>	
<p>●自治振興区より現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化のスピードが早く進んでいる。総領小学校は令和7年には全学年複式となる。 ・店舗の減少、JAの広域合併による閉塞の方向、ガソリンスタンドも1件になる。 ・害獣駆除も出来る人が減っている。マンパワー不足により草刈り支援・ゴミの分別、移動困難がおきている。 ・人口減少により、地域においていろいろなことができなくなっていることから、「特定地域づくり事業協同組合」について研究し取り組みを進めようとしている。 <p>この事業を進めるには、県や市の協力が必要であり、導入に積極的に参加してもらいたい。</p>	
<p>高齢化が進み、自宅から最寄りのバス停に行くことさえ困難となっている。公共交通や市民タクシーなどの施策を行っているが、行政のみならず地域の者としてどうすればよいかを考える必要がある。</p>	<p>東城地域では、オンデマンド、MaaS等の実証実験が行われ、地域における生活交通の在り方について研究がなされている。</p> <p>地域の特性を活かした予約制の乗り合いタクシーなどにより、料金をおさえ、さらには効率の高い交通網になするなど、地域においても知恵を出し合う必要がある。</p>
<p>学校適正規模・適正配置に関して、総領中学校は第3グループであるが、教育委員会からの説明はいつ頃来られるのか。</p>	
<p>JAのスタンドがいつまであるか不安である。</p>	

【 団体 比和やまびこ会 】	
(1) かんぼの郷庄原	
新たな会社については、経営のプロにより運営すべき。	各委員会・本会議などにおいても執行者に求めている。
市内の各場所との連携(備北丘陵公園、吾妻山、比婆山など)により、利用を高める手立てを。	今後、各種の取り組みは進められると聞いている。
12 月で指定管理者を決めるということであるが、オープンに間に合うのか	現時点の経営者への指名という検討もなされていると聞く。
郵政が手放すということは、赤字経営であった理由からであり、市が取得しても赤字経営は変わらないのではないのか。	これまでは、郵政により規制があり、なかなか思うような取り組みが出来なかった。 また、手数料として売り上げの何%かを郵政に支払っており、これらが無くなることで一定の収益や思い切った PR、サービスが出来ると考えている。
各種のサービス(市民へのサービス含む)を検討いただきたい。	引き続き、協議や審議の場で求めていく。
郵政が経営していた時の赤字については、その要因をしっかりと分析して、新たな経営に臨むべき。	これまでの各種規制や制約については分析しており、今後の参考としている。
(2) 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画	
市の取り組みは、国が言っているのとは逆行していると感じる。人口減少対策や少子化対策に力を入れ、補助金等も考えられているが、市にはその姿勢が伺えない。	市は、人口減少対策を重点施策としているが、反面、統廃合を進めるということについては矛盾していると考えている。
市は、人口を増やすことに重点を置くべきであるが、その政策が見えてこない。労働者世代を確保することが重要で、働き手を確保するためには事業所を増やすことが重要であり、それが出来ればおのずと子供たちも増えてくる。	
大規模校・小規模校の学校それぞれの特徴がある。どちらも選べる学校選択制にすべきと考える。	同感である。小さい規模の学校についてもその良さがあり、選択できることで子供たちが、より安心して学校に通える環境が整備できると考える。
統廃合で最も重要なのは、『いじめ対策』である。小規模校の子供が大規模校に行くと『山猿』とかいうことでいじめられる。そのようなことがないようにすべきである。	大規模校では、いじめがなかなか見つからない傾向がある。小規模校では、教師の目が行き届いているので少ないと考える。
中学校の生徒が少なくなって、統合するのは仕方ないと考えるが、庄原中はとても遠い。現在でも冬季は 1 時間程度かかっているものが、倍以上となる。庄原中への統合について、寮の完備が必要と考える。	
なぜ庄原中への統合なのか。比和中を庄原中の分校として位置付け、庄原中からも生徒を受け入れるようにすべきである。そうすることにより、大規模の学校になじめない子や小規模校がよい子に対応できる。	
各地域に小中学校が必要であり、比和のような場所では『小中一貫校』のような取り組みをすべきである。	
私は、子供のころマンモス校 1000 人以上と呼ばれるところで育った。結婚して帰ってくるときに、庄原市中心	私も I ターンで来ているが、やはり自然の中での子育てをしたいと思う親は沢山いる。

<p>部、三次市などへの住居も考えたが、自然の中で子育てする大切さを感じて比和を選んだ。町内に学校があることで安心して子育てができていたが、今後、遠距離の学校へ通学するとなると不安である。</p>	<p>このことから小規模校は残すべきと考えている。</p>
<p>統廃合の説明では小規模校のデメリットが説明されたが、全く逆である。コミュニケーションが不足するとか、切磋琢磨できないというが、小規模校でそれぞれの顔が見えることにより、いくらでもコミュニケーションはできる。逆に大規模校では、知らない人もいることから、大人数がコミュニケーションできるという考えは間違い。</p>	
<p>教育長は『反対があれば無理に進めない』と言っているが、一方では県教委から、この程度の学校は早く統廃合すべきとお叱りを受けているとも発言された。『統廃合ありき』という考え方であり、単に人数を集めればよいという考えのように思える。小規模校の実態について研究していないといえる。</p>	
<p>今回の統廃合については、『教育の質の向上』の論点が示されていない。庄原市の教育を今後どのように進めていこうとしているのかの視点が見えない。教職員のアンケートでは、1人の教師では25人までが限界であり、30人以上となると無理であるということを知った。30人程度の規模に入れること自体、おかしいといえる。</p>	<p>6月の教育総合会議では、市長は、小学校については地域・保護者との丁寧な説明を進めるとし、中学校においては、見直しも含めて協議を行うとしている。 (その他2議員も同意見)</p>
<p>議員がこのように反対をしているのであるから、中学校の統廃合については、中止すべきであり、そのことを議会で表明すべきと考える。</p>	
<p>比和地域では、中学校の統廃合の影響で、保育所園児も減少しているのではないかと考える。結論を早く出して、安心させる必要がある。</p>	
<p>(3) 過疎対策についての地域づくり</p>	
<p>比和地域では、合併以後1000人近い人口が減少している。その理由は、産業がないこと、働く場がないことなどがあげられる。比和には多くの資源があり、そのことが上手く生かされていない。今後のことを考えて、次の2点について要望した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市街地(郵便局周辺)に、農産物加工所を兼ねた道の駅を設置いただきたい。 ② 地域の移動購買車が運行しているが、赤字状態である。市の支援が必要と考える。 	

<p>この地域に住み続けて70年になるが、中心地には賑わいがあった。現在は、人口が減少すると同時に活気もなくなっている。商店も2、3店舗となっており、高齢者はなかなか出掛けることが出来ず、移動購買車が動いているが、赤字で経営が出来ないと言っている。市が支援しなければ、今後、買い物ができない者が増えてくる。他の地域では補助金をもらっていると聞かどうなのか。</p>	<p>東城や西城でも移動販売車はあるが、補助金は終わり、独自で実施している。</p>
<p>農産物加工所や道の駅については、やまびこ会で要望を行っているが、市役所では議論されていない。要望が支所で止まっているようである。本庁に問い合わせたところ、平成26年以降議論されていないという。要望が上に行かないことは問題である。</p>	<p>市長や議会への要望、特に議会への要望については、何らかの形で委員会に付されて議論される。どこかで留まるということはないはずである。 農産物加工所については、『吾妻路』での実施検討について聞いたことはあるが、そちらではないのか。</p>
<p>吾妻路については、休日は外からの来訪者へ対応できるものの、平日はお客がいない。市民が活用しようとしても遠いので利用ができないと言った問題が生じている。 町の中心にあることで、多様に利用ができ、それにより地域が活性化する。雇用も生まれると考える。</p>	
<p>高野の道の駅では、年間かなりの収益が出ていると聞く。また、市からの指定管理料も出ているのであれば、その収益部分や指定管理費の一部を、建設費用に充てることは可能ではないか。</p>	<p>以前、地元議員さんから何度も出ている問題である。内容について詳細には理解できていないが、何らかの検討はする必要があると考える。</p>
<p>これまで地域の願いを要望してきたが、全く受け入れられていない。議員としてもこのことを受けていただき、議論をお願いしたい。</p>	<p>必要であり、地域がまとまるのであれば、引き続き要望いただきたい。議会としても検討する余地はある。</p>
<p>(4) その他</p>	
<p>比和地域で、熊の目撃情報が相次いでいる。市は、対処方法として広報しているが、根本的な対応が必要と考える。</p>	<p>法律の規制があり駆除ということは難しいところはある。何らかの方策を検討する必要があり、今後、市に対して問い合わせていく。</p>
<p>近くで出没し、子供にも外で遊ばせることができなくなっている。何とか対応していただきたい。GPSをつけるとかの対策はできないのか。</p>	
<p>先日 PTA でこのことを教育委員会にお願いしたが何の回答もない。これでは疑心暗鬼になる。</p>	
<p>今回の市民と語る会について、やまびこ会として申し込みを行い、広く周知を図るため支所に告知放送を依頼したが断られた。課題として提起する。</p>	
<p>今回、比和だけ開催されなかった。チラシにはその理由がなく単に開催されないというチラシであったので、事務局に問い合わせを行った。いろいろと誤解があったのだと思うが我々は議員と意見交換を行いたいと考えており、来年以降もお願いしたい。</p>	

7. 意見交換

【 庄原地域 庄原地区 】	
<p>安心して暮らせる地域社会の構築は普遍的テーマである。国会で病床数の削減が提案されたが、コロナのこともあり、これでは安心、安全に暮らせない。市議会で守ってもらいたい。</p>	<p>庄原赤十字病院には減圧室もあり、コロナ対応の準備ができています。国は医療機関がお互いに助け合い、ネットワークを構築することを進めており、庄原日赤を中心に県北のネットワークづくりを進めている。</p>
【 庄原地域 高地区 】	
(1) 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画	
<p>高小学校PTAと保育所の保護者で検討委員会を立ち上げ、小学校11人、保育所4人の計15人で話し合いを行った。結論から言うと 学校を残してほしいということだった。</p> <p>以前小学校で、児童が、学校がなくなることについて口論になったことがあった。子供も自分が通う学校がなくなるのではないかと不安を感じている。親としても、不安を感じる子供に対して応えることが出来ない。子供たちが不安を感じる中で学校に通い、勉強など学校生活を送らせてしまうことが子供に対して非常に辛い。計画に期限がないことで、いつまでなのか？子供に対して「安心して高小学校に行っていよ」と言うことが出来ない。子供たちの心をわかってほしい。子供たちに安心を与えてほしい。</p>	<p>庄原市教育総合会議において市長はこの件について、今後においてはコンセンサスをきちんととって対応していく、と言った。議会としても9月議会で付帯決議とした。地元で納得のいく議論をして（市と保護者と地域と教育委員会と）結論を出していただきたい。</p>
【 庄原地域 本村地区 】	
<p>水道整備が出来ていない。5～6年前から言っている。高速道の塩害地域100軒程度だけ補償されている。生活が出来ない不安。井戸を掘ってもフッ素が出る。水質が悪く加工業も挑戦出来ない。</p>	<p>環境政策課のボーリング補助等も活用してもらいたい。新たな簡易水道を設けて塩害対象外地域が給水する場合、各戸費用発生することも理解いただきたい。</p>
【 庄原地域 峰田地区 】	
<p>現在の庄原市の現状を聞かせていただきたい。</p>	<p>(5名の出席議員がそれぞれの考えを述べる。)</p>
<p>峰田小の統廃合計画は、市として丁寧に時間をかけて地域の話は聞くということだが、計画の白紙撤回もありうるということも含めてのことか。</p>	<p>白紙撤回ということではない。保護者、地域の皆さんとの意見交換を丁寧に行い、ご理解いただこうとしている。</p> <p>教育委員会は、地域や保護者への説明会を実施しようとしているが、コロナによってできていないところもある。山内地域では、協議会を作られて、今後はそこの話し合いになると思う。</p>
<p>統合という計画は財政的な面か。それとも教育的な面から出来たのか。</p>	<p>子供たちの教育環境を整えることを目的として、進めていると聞いている。</p>
<p>広報へは統廃合計画は統合によるメリットしか書かれていない。問題もあるはずである。</p>	
<p>子供たちが一番不安を感じている。一刻も早く子供たちの不安を解消してやってほしい。</p>	

【 庄原地域 敷信地区 】	
市内に緑（山）が多いのに、なぜ歩道にまで植栽するのか。県大通り、市役所通り、往路樹の枝や落ち葉の清掃が必要で、お年寄りがされている。根から切ってほしい。歩道に植栽をしないでほしい。	担当常任委員会で議論する。
市議会だよりに教育の話題が少ない。	
芸備線を残すのは時代に合わないのではないか。車を手放すことはない。取り組みが遅い。学校は駅から近いところがあるので、電車通学は可能だが、仕事となるとそうはいかない。カーブ列車を走らせても無理。	
【 庄原地域 東地区 】	
(1) かんぼの郷庄原	
以前はよく利用していたが、今はほとんど行かなくなった。でも、協力していきたい。	指定管理など今後の議会にかかってくる。議会も多く意見を出していきたい。市民の皆さんにも協力をしてもらいたい、もう一度かんぼを育てていただきたい。
人口が減少する中、庄原に残っている者からすれば、かんぼは大切である。市民として盛り上げていきたい。例えば、草刈りや掃除のボランティア、お金を出して会員になってもらって利用した時の特典をつけるとか。外から来てもらうことも必要であるが、地元の人に多く利用してもらうことが大切。広く市民から意見を募ることもお願いしたい。	
(2) 庄原市公立学校適正規模・適正配置基本計画	
それぞれの地域に学校があった方がよいと考えている。実際になくなったところは跡地を含め寂れている。今後、住民理解を十分にとっていただきたい。	
情報は、時の権力によってどうにでも操作できてきた過去がある。どういった情報を流すかが大切である。市の広報には、再配置された学校については良かった感想しか掲載されていないが、本当に良かった感想しかなかったのか。	
地元からすれば学校は残してほしい。	
地元の意見もあるが、ぜひ児童のこともしっかりと考えてやってほしい。	
【 庄原地域 山内地区 】	
年金暮らしで空き家対策の家財整理等 100 万単位の費用を出せない。地域で片付け、交流も生まれている。駅の清掃等も含め、みんなで頑張っている。	
農地・ため池・法面・水路管理等は限界。小作計画では解決しない米や作物の価格低下。農家の存続に不安がある。若者を交えて、住みよい地域を作らなければ、様々な問題は解決しない。	議員も農業をされていて大変さは理解している。米価問題も市内に農業高等専門学校を設立することも市長に要望・提案している。

地域の声をしっかり聞くよう委員会で委員が発言しているのを見て嬉しかった。	
市も議会も地域の実情を知り、大きな視点で本当に頑張ってもらわなければならない。農業も教育も夢のある話をしてほしい。	
【 西城地域 西城地区 】	
(1) かんぼの郷庄原	
これまでも家族とともによく利用してきた。市が取得することで今後は雰囲気が変わるのか。	指定管理者がまだ決定したわけではないが、会社が変わらなければ、雰囲気が変わることはないだろう。
今のままの経営では利益が上がらないと思われる。経営、営業に関して「桜花の郷ラ・フォーレ庄原」になったときに管理者へ丸任せするのか、広く市民の声を聞くのか。	市民の皆さんが積極的に利用するために市民的な運動を起こしていかなければならない。 行政財産として取得するので、市民の方が利用しなければならない。元々市民福祉から始まった経緯があるので、議会としても十分議論しなければならない。
営業について議員も目を光らせて利益をめざしてやらなければならない。議会から多くの案を出して庄原市を盛り上げてほしい。計画性をもって魅力あるようにしていかなければならない。	かんぼの郷庄原は日本郵政に賃料を払っていた。それがなくなるので、差し引きすると大丈夫ではないかと考える。今後コロナも落ち着き、G o T o 事業も再開されると予想されるので、しばらくは大丈夫であろうというのが自分の出した結論である。
(2) 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画	
西城っ子祭りがあり、美古登小学校で行われていた美古登囃子をやった。地元の文化等を受け継いで残していくことはとても大切である。すでに統廃合した小学校もあるが、中学校区は出来るときまで残してほしい。	
「人口減少問題を一番に対策しなければならない」と選挙の時に市長が言っていたが、庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画をはじめ、施策が人口を減らそうという取り組みばかりと感じる。人口を増やす取り組みを行ってほしい。	人口対策についてはこれだという決め手がなく、ひとつひとつの積み重ねである。再配置も地域振興にはマイナスの面がある。地域の合意なしに再配置は出来ない。全ての子供が教育を受ける権利を有している。それを守ることが大切である。どこに生まれ育っても教育を受けなければならない。
【 東城地域 小奴可地区 】	
鳥獣害対策が追いつかない。猟友会の鉄砲撃ちが少ない。市の職員に免許を取らせるところもある。庄原の加工施設は遠く時間かかる。小奴可につくるのは費用対効果がないと言われたが考えてほしい。	庄原では取れ過ぎて保管に困っている。ぜひこちらでもやってほしい。こちらからも言う。
【 東城地域 八幡地区 】	
鳥獣被害がとても多い。補助金等は出されているが間に合わない。増額してでも強化していただきたい。 猟期に入り、余計に駆除ができない状況になっている。	有害鳥獣処理施設は利用されているか。
東城からでは距離があり、持ち込みは無理である。	
RDF が廃止になるが、庄原まで持っていくのか。	RDF の跡地が中間ストック施設になるので、今までと変わったことはないので安心いただきたい。

【 東城地域 田森地区 】	
教育長の姿勢に疑問がある。	教育長不在という状況は作りたくなかった。地域、保護者の事をしっかり聞くという姿勢がみえたのは前進であった。
<p>山内からこの地域が心配でやってきた。統合は山内も同じ現状である。複式だから、大規模校だからではなく、子供たちにとって何が大切か、地域、地域ばかりではダメだと思う。</p> <p>どうして土俵にあがらないのか、話を聞く機会を持ち、保護者や地域の意見をしっかり伝えるべきだと思う。心と心で話せば変わっていくこともある。</p>	大規模校がいいという意見も議会の中にはある。教育民生常任委員会を中心に議論を闘わせ、様々な問題に対して議会の中で意見を集約してやっていきたい。
【 東城地域 東城地区 】	
庄原市の教育全般の予算を増やしてほしい。例としてフィンランドのように抜本的に教育を考え直していくことも検討してほしい。子供を育てるため、将来のために教育予算をしっかりつけてほしい。	国内全ての子供が同じように教育の機会が均等になればならない。現在高校の学費について国が3分の1で、残りは各地方の負担であるので地域格差が出てしまう。できるだけ子供たちの教育予算について議会の方から要望を出していかなければならない。
【 東城地域 帝釈地区 】	
かんぼの郷庄原の取得数字はどうやって出たのか。修繕費もかなりかかると思うが、議会は理解して賛成したのか。将来赤字になった場合はどうするのか。運営会社は継続になったのか。	全国的なかんぼの売却額を考え、妥当であると判断した。指定管理者については公募すべきと議会で何人も発言した。
【 東城地域 久代地区 】	
合併後、職員の中途退職が増えているが原因は何か。それぞれの考えを聞かせていただきたい。	<p>職員の休職等での負担増やいろいろな問題の積み重ねではないか。</p> <p>組織体制の問題があるのではないか。</p> <p>今後は職員の中途退職、病休になる原因の究明をして、職員が辞めない取り組みを進める。</p> <p>若い人たちの声を少しでも多く聞く機会を作り、そのことを実現することが重要と考える。庄原の人口問題をとことん考える会のようなことにならないことが大切。</p>
【 東城地域 新坂地区 】	
災害工事が進んでおらず、手付かずとなっているところがある。支所に行ったり、負担金も既に払ったが、やってもらえない。米も作れない。優先順位を考えてもらいたい。米作りに関係のないところからやっている。なぜか。	災害が多く、工事を進めているが、人手不足や請け負う業者が減っているなど、対応が遅れている。工事は必ず行っていく。
神石高原町は農災に負担金はないと聞く。	
【 口和地域 口和地区 】	
口和郷土資料館は市から予算は限りなく少ない。ほとんど持ち出しである。	

【 高野地域 高野地区 】	
林業、米農業は限界。高野で高温障害が出ている。お金になるよう情報、知識が必要。盗伐、よその山を切っている、事態を持ち主も気付いていない現象が起こっている。	国も森林環境税を出し調査。間伐も進んでいる。二酸化炭素の吸収率を上げる山林づくりに向け、市の姿勢もある。
上水道が通っていない。井戸を掘ったが出ない。なぜ水道整備してもらえないのか。	今の庄原市財政では整備は厳しい。色々な方法が考えられるが負担が必要。
【 総領地域 総領地区 】	
総領では、「こまわりくん」が走っているが、空で動いていることが多い。もっと効率良く運行することを考えるべきである。	
持続可能なまちづくりのテーマは、5年10年、もっと先のことを考えるのか。	これだけ社会情勢が短いサイクルで変化する中では、長期での展望は考えにくい。5年程度の中期での展望考えるべき。
医療にしても生活にしても町内で済ませられることは少ないが、町外（庄原市街地）へ出る交通の便が悪い。（前述のバス停に行くのも困難という意見を含む）	
若者定住住宅など、10年経つと家賃が高くなっていく。制度として理解しているものの、家は古くなっていくのに家賃が上がるのはおかしい。一定の期間を過ぎると、新たな住居を選択することになるが、新しいアパートを借りよとする場合、町外や市外に出ていくという状況であり、定住施策に矛盾しているのではないかと思う。住み続けるという観点から、住宅の払い下げなど出来ないのか。	合併前においては、古くなった町営住宅を売却するという事例もあった。定住促進住宅などには一定のルールがあるため、ある程度になれば新たな住居を求めることになる。しかしながら、そのために市外に出るということは、問題であり、今後議論していく必要がある。
自治体施設の音声告知放送は、防災上の観点からも無料にしてもらいたい。	
新型コロナ感染発生者の情報については、地域別、町村レベルで発信が出来ないか。	感染者の情報管理は県が行っており、県から提供される情報しかお伝え出来ない。
総領の自治会館は7か所あるが、現在、市が地元移管を進めており、各地域へ説明している。地域が取得するとなると、多額の費用が生じるため、管理ができないという状況である。	市と調整をしている最中であり、今後の状況については議論をしている。（事務局説明）
	特定地域づくり事業協同組合については、今後検討を進めるとともに、交通の利便性確保、住宅問題、通信、耕作放棄地の問題を解決することで、来てもらえる地域を作っていけば良い方向にいくのではないかと。
	住み続ける地域にするためには人口を増やす、田舎に住みたい人を呼び込む取り組みが必要である。山内地域では移住者を呼び込む取り組みを地域が行っている。
孫が複数年すれば中学生になるが、中学校がなくなれば庄原へ行くようにするが通学に時間がかかる。いつ頃決まるのだろうか。	教育委員会においては、丁寧に地元説明を行い、理解を得ながら進めるということである。地元の反対の姿勢が強ければ、進まないと思う。

上水道の拡張はどうなっているのか。	事業を実施するという方向は聞いているが、具体的な情報は持っていない。いつ頃にするかなどは、何らかの形で返答する。
光回線の利用などは NTT だけでなく、他社入札で競争することで安くすることは出来ないのか。	音声放送やその他の関係で NTT の財産となっている。確認してみる。

8. その他（自由意見）

【 庄原地域 本村地区 】	
シカやクマ等、誰かが怪我をしないと市が対策しない。事前の対策が必要ではないか。	高野町では実際熊の人的被害もあり、殺処分を行った。法律の規制があり、基本的には、捕獲後放獣することが原則である。 近年、作物被害もりんごを中心に多く、深刻である。クマだけでなく、イノシシなど繁殖数が多すぎて手に負えない。
かんぼの郷で赤字を出した事業者に運営させて、また赤字補填するのか。修繕費や料理の悪さも懸念している。	赤字の原因は高額な管理費を日本郵政に払っていたためだ。議会としても宿泊・食事・温泉全て大事だと執行者に伝えた。指定管理者を指名でなく公募するよう求めているが、まだ決定していない。
かんぼの郷の継続には賛成。必要な宿泊施設である。管理運営をチェックし、遊休地活用や避難所として活用も考えてほしい。	
【 庄原地域 峰田地区 】	
庄原市の最重要課題は人口減少問題であろうと思うが、議会全体としても本気で継続して取り組んでいただきたい。	
本日出た要望等については、いつごろまでに回答いただけるのか。早急に解決していただきたい事項もあり、早めに自治振興区へ回答いただきたい。	冒頭でも述べたが、今回は、皆さんの意見をお聞きし、それぞれの議員活動や委員会での議論、協議を行うこととするためのものである。執行者ではないので、どのように取り組むかなどの回答はできない。
市道改良ですでに丁張もできて施工できるようになっていたのに、災害によりとん挫している。いつできるのか。	平成 30 年度災害については、あと 2 年で復旧工事を完了させる必要があり、それを優先している。その点ご理解いただきたい。
【 庄原地域 東地区 】	
議員定数については減らさないのか。	議長諮問で出されており、今後検討することとしている。 多方面から考えなければならず、結論ありきではない。一つの案として、議員を減らすならば通年議会を導入すべきである。
【 庄原地域 山内地区 】	
かんぼの郷の修繕費を見誤っていないか。負債が心配。地産地消で印象に残る美味しい食事を提供し、優秀な経営者に健全な運営をしてほしい。	

【 東城地域 小奴可地区 】	
バイオマス事業はなぜ裁判になったのか。議会は止められなかったのか。議会は最後の砦。	構想は素晴らしかった。しかし、市の詰めが甘く、人を見る目がなかった。議会としても二度とあのようなことがないようにという決意はしている。
【 東城地域 帝釈地区 】	
林業環境譲与税を利用し早く形を整えてほしい。林道整備、森づくり事業を早急にしてほしい。	比和の旧小学校を活用して体験施設を整備した。山の境がはっきりしていないなどの課題も多い。管理制度も含め、もっと具体的に示すべきであり、市民に理解してもらえるように担当課へ繋ぐ。
【 口和地域 口和地区 】	
口和地域の防災マップは早くから取り組んでおり古いままで配布している。令和 4 年中には新しい物を配布しようとしている。浸水想定区域について県の河川課から最近出たが、庄原市の場合ほとんどの公共施設がその区域に入ってしまった。どうしたらよいか相談したい。	
定住推進委員として活動するなかで、よその先進事例を見ていくと、まちづくりをするうえで行政と議会が踏み込んだ議論をして、自治振興区の会議の中で課題があるので、市からも参加して議論し、融合してまちづくりの取り組みを進めてほしい。	
【 高野地域 高野地区 】	
市民と語る会を比和で開催しない理由は。町村によって力を入れるところ、事業をしてもらえないところがあり、議員がいないとしてもらえないのか。学校統合計画について教育長が再任して状況は。	市民と語る会はコロナの関係で出来なかった。市はバランスを重視しているので、差があるということはない。近く比和で婚活事業実施もある。地域の理解がないと統合しないと言われている。

9. 議会に対する意見・要望

【 庄原地域 庄原地区 】	
永末小学校の保護者会で、統合は延期と言われただけでその先の方向性の説明がない。 放課後児童クラブも夏休みなど密になっている。この 8 月には児童数が 30 人から 50 人になり、児童数が増えて指導員が不足し、条件整備が追いついていない。現場の職員が苦勞されている状況を把握し、予算の審議でしっかり議論して予算をつけてもらいたい。保育所の問題も来年 6 人が 1 人になる。時間もないので対策を急いでほしい。	
【 庄原地域 本村地区 】	
地域の細かいところを見て、ちゃんと現状を見て話してほしい。	
議員定数が適正なのか。減らすことも考えてはいかがか。	
【 庄原地域 敷信地区 】	
ドライブインのある新庄の交差点から上野総合公園に向かう歩道は、地域の方がよく歩く道だが、側面の山からの木や草がひどい。議員も一度歩いてみてほしい。	
【 庄原地域 北地区 】	
地域からの休校施設の使用について提案があった場合、スムーズに利用しやすい仕組み作りを議会としてしていただきたい。	
国道 432 号は道幅も狭く歩道もない危険な道路である、歩道設置等の対応をしてほしい。	
【 西城地域 八針地区 】	
市とウッドワン、森林組合などを巻き込んで、資本を出し合って大きな製材工場をつくるように議会を通して市に働きかけてもらいたい。特に乾燥技術を強化してもらいたい。	

【 東城地域 小奴可地区 】
市民と語る会で回答を求めている。聞いて持ち帰り担当課へ繋いでほしい。
道路施工終了後、小学校のスクールバスの乗降場がないことがわかった。前もって意見を聞き、議会も議論してほしい。
【 東城地域 帝釈地区 】
議会の委員会でも地域交通、過疎対策を総合的に対策してほしい。
【 東城地域 新坂地区 】
新坂の交通事情を調べてから、市民と語る会に来てほしい。
【 高野地域 高野地区 】
県土木へ河川堆積土の撤去を要望しているので、市議会も後押ししてほしい。高野だけでないと思う。
【 総領地域 総領地区 】
特定地域づくり事業協同組合は、市の理解がないと進まないで、議会としても議論を進めてほしい。
エネルギー（資源）、食（比婆牛・米など）、また、災害に強い地域に住みたい人は増えてくると思う。それらをPRする施策が必要である。

10. 執行者に対する意見・要望

【 庄原地域 庄原地区 】
往路樹について、業者任せではなく剪定の仕方や管理の工夫がいるのではないかな。
森林資源が有効活用されていない。庄原市内で雇用の場を確保してお金が回るような施策を考えてほしい。
町中の高齢者が増え、ゴミの分別やゴミ出しが難しくなり相談員が援助している。
クジラの化石が出ているが、庄原市民の関心が低い。周知の取り組みを進め、活性化につなげ、化石で庄原を盛り上げてほしい。
【 庄原地域 本村地区 】
資本のある市やJ A等若者を集中させて市外へ出ないようにしてほしい。農地放棄しないよう、賃貸制など協力してほしい。
テレビ報道で見たが、地域で獣害対策を仕事とする人をつくる。市の組織に担当課をつくり、市が要請を出せば現地へ出向くような仕組みをつくってはどうか。
昔のように米を販売して半農半Xで生活できる環境をつくり、水道整備して生活環境を整えてほしい。給水に各戸いくらかかるか、再度試算してほしい。
【 庄原地域 敷信地区 】
ゆめさくらの道路への出口、かんぼの道路への出口、いずれも視界が悪い。西城側からの車が見えない。
板橋地域の子供が地元の保育所に入りたいと希望しても、入れない状況があるのはおかしいのではないかな。地元の保育所に行かないから、同じ地域の子の小学校がばらばらになっている。
学校に市独自予算で補助教員や用務員的な人員を増やし、教員に余裕を与えてほしい。
【 庄原地域 山内地区 】
市外へ出ないと勉強が出来ない環境に問題がある。過疎問題は色々な分野で問題となっている。市内に中高一貫校を設立するなど、工夫し人口増に繋がる教育をしてほしい。大崎上島のように夢を持って教育の話をしてほしい。

複式学級の指導力や教員数に問題があるなら、能力のある先生を連れてきてほしい。
島根原発の避難所に庄原が指定されていると聞いた。市の対応、現地の対応など、詳しい情報を教えてほしい。
【 庄原地域 北地区 】
市長部局は統廃合にほとんど関わられていない。学校の最高責任者は市長である。統廃合の説明会の時には、教育委員会のみでなく、他の関係課も一緒に行って説明すべき。
【 西城地域 西城地区 】
市職員全体に対する臨時職員の割合のデータを提示してほしい。
【 東城地域 小奴可地区 】
市議選の翌日は新聞が休みだった。市民に近い選挙なのにオフトークもなくおかしい。ちゃんと伝えてほしい。
災害復旧でかなりの期間工事をしている。河川や道路の工事は直しては壊れの繰り返し。1～2m広く直せないのか。
【 東城地域 田森地区 】
道路インフラが一般般が原化した。ガソリン税を取っているのに皆のために使っていない。170円/ℓ以上となっており、減税の動きもなく地方は本当に困っている。都会と田舎の差が出てくる。市としても要望してもらいたい。
粟田小学校に事務職員の配置がなく、やっと6月から事務職員が補充された。遊具が撤去され、そのままになっている。特別支援学級にエアコンが設置されていないなど、しっかり調べて正してほしい。
【 東城地域 東城地区 】
市民栄誉賞を受賞した人等に指導をしてもらうなど、庄原市しかできないような事柄の機会をつくってほしい。
学校の送迎について、季節による問題なども想像される。学校適正配置を行った後、どういう状況に子供たちが置かれるのか考えてほしい。学校と家庭の連携も、単純に距離が離れすぎて、これまでのようなことは難しいし、出来ないであろう。
【 東城地域 帝釈地区 】
帝釈版地域包括ケアシステム、都会の家族に協力をいただき医療介護を地域連携している。登録人数は少ないが取り組みを自治振興区から送付し、情報提供することでUターンを増やしたい。市の予算でモデル事業として取り組んでほしい。
【 東城地域 久代地区 】
東城の道の駅のトイレが最悪である。観光で交流人口を増やそうとしている庄原市の玄関があんなトイレではいけない。早急に治すべきである。
かんぽはどんなパターンで運用されるのか。
【 東城地域 新坂地区 】
サル駆除の専従を増やしてほしい。
【 高野地域 高野地区 】
わずか3時間で災害が起こっている。堤防を高くするなど大切だが、温暖化、環境グローバル化に取り組むべき。市や議会の姿勢を持たないといけないと思う。
被災時、情報をいかに末端まで拾いやすく提供するか。TVの難視聴地域の解消を図ったが何十年も経ち老朽化。2回目はないのか。困っている人に手を差し伸べる行政であってほしい。
市民レベルでの防災。事例マニュアルがほしい。川北、東城、西城の被災から動きがないのか。

11. 市民と語る会の検証結果

(1) 開催会場の設定数について

【実施状況】

- ① 自治振興区 20会場（庄原8・西城2・東城7・口和1・高野1・総領1）
- ② 団体 1会場（比和やまびこ会）

検証結果

- ① 自治振興区 21 会場を設定し、1 会場を除いてほぼ全域で開催することが出来た。
開催しなかった 1 会場は、コロナ禍で地域内行事は開催しないとする意向であったが、丁寧な説明を行い、実施に向けて細やかな調整を図る必要があった。引き続き、全 21 会場での開催を目指して自治振興区と協議を重ね、連携を図っていく。
- ② 市内で事業活動等行う団体（以下「団体」という。）を対象に、市民と語る会の開催希望を募集した。
概ね 5 人以上の団体で 3 団体を先着順とし募集した結果、1 団体の申し込みがあった。3 団体の開催を目標として設定した取り組みは適切であったが、様々な条件での開催を目指していくうえでは、少人数でも開催を希望する団体があれば、議会として応えていく必要があると思われる。

(2) 開催時期等について

【実施状況】

- ① 開催回数 年 1 回
- ② 開催時期 11 月 1 日 ~ 11 月 17 日（9 月定例会終了後）
- ③ 開催日時 平日の 19 : 00 ~ 21 : 00（3 会場は 18 : 30 ~ 20 : 30）
- ④ 日程調整 班の代表者と自治振興区等の代表者で協議し決定

検証結果

- ① これまでの議会報告会は開催時期を7月に設定していたため、災害等による延期・中止が多く、適切な開催時期を模索検討するなかで、今年度は11月を開催時期に設定し取り組んだ。農繁期も終わり、各種行事やコロナの感染状況も比較的落ち着いた時期であったため、全会場で計画どおり開催し、参加者も前回より多かった。
11月開催で計画から実施へ向けてのスケジュールを勘案すれば、開催回数は年 1 回が適切である。
- ② これまでの報告会では予算や条例等、年度始めの早い時期に開催し報告する必要があったが、意見交換会形式へ変更したことにより、開催時期は年度内で柔軟に設定できると考えられる。
- ③ 平日を基本に、昼間・夜間を問わず 2 時間以内で日時設定する計画としたが、概ねこれまでどおりの平日夜間の開催となった。日程等の設定は自治振興区等との協議により決定するが、夜間の開催では女性や主婦の参加が難しいという意見もあり、休日や昼間の開催についても引き続き検討し、臨機応変に対応していく。
- ④ 自治振興区での参加が時間的に難しい場合は、女性の団体やグループなど、団体等の枠で柔軟に対応することとし、幅広く周知を行っていく。

(3) 実施内容等について

【実施状況】

- ① 意見交換テーマは、班の代表者と自治振興区等の代表者で会場毎に協議し決定
- ② あらかじめ共通テーマを設定
- ③ 参加者を対象にアンケートを実施

検証結果

- ① 意見交換テーマを事前に設定することで、活発に意見交換を行うことが出来た。ただし、テーマ設定の内容や趣旨、設定の経過がわからないという意見も多く、自治振興区等で広くそのことを周知していただくよう、事前の協議段階で働きかけを行っていく必要がある。
- ② 2つの共通テーマ設定は、全地域に渡って関心を持たれているテーマであり適切であった。引き続き市民の関心度の高いもので、要望に応えることができるテーマを設定していく。
- ③ 参加者を対象にアンケートを実施し、多くの方に回答いただいた。(回答率89%。傍聴議員は除く)
語る会の開催に対する意見や市政・議会運営に対する意見など多くあり、今後の取り組みの参考とするため、引き続き実施していく。

(4) 班編成について

【実施状況】

- ① 議長を含む5人単位で4班編成(常任委員会単位)
- ② 全体21会場を1班が6会場、2～4班は5会場担当

検証結果

- ① 議会報告会では、議長の公務が多く報告会への出席が困難であることから、議長を除く5班編成としていた。
5班編成では3人しかいない班もあり、これまで運営に苦慮していた。スムーズな会の運営や担当会場を増やすことでより多くの市民意見を伺う機会が設定できるため、今回から議長を含む5人単位の4班編成とした。
- ② 5人単位の班編成は運営や進行もスムーズに行うことができ、適切であった。議長の出席はコロナ禍で各種会議の開催変更に伴い今回は対応出来たが、今後は社会情勢を見ながら議長公務の負担を勘案し、班編成方法を再検討することも必要と思われる。班編成には議長を加えるが、議長の当日欠席はやむを得ないこととして、当面、班編成は現行どおりとする。
- ③ 改選後初の開催で、新人議員や委員長の割り振りにより、常任委員の偏りがあった班があった。今後は適切な割り振りが可能と思われるが、班編成時に常任委員の構成を必ず確認する。
- ④ 4班編成にしたことで、各班の担当会場が増え、より多くの地域へ出向き、様々な意見を聴くことが出来た。

(5) 運営等について

【実施状況】

- ① 役割分担は各班で決定し、記録は、班員（記録者）による要点記録とする
- ② 時間配分は2時間以内とし、各班で時間配分を決定
- ③ 次第は次の流れで実施
受付（アンケート配付）⇒開会（挨拶）⇒趣旨説明等⇒意見交換・懇談⇒閉会（挨拶）
⇒アンケート回収
- ④ 配付資料は各班で準備

検証結果

- ① 役割分担、時間配分は各班で対応した。終了時刻をあらかじめ設定してほしいという意見が市民・議員共にあったが、会場での雰囲気や状況に応じて、各班で適宜判断し、2時間以内を目安に時間設定することをはじめに確認しておく。
- ② 記録は要点記録としているが、記録者に報告書の提出方法を確認できていなかった。事務の都合上、データでの整理・提出をお願いすることとし、事前に依頼し確認しておく。
- ③ 会場毎にテーマ設定を行ったため、会場によっては挨拶等兼ねて、自治振興区からテーマ設定の趣旨やそれに伴う自治振興区の現況などの説明を行っていただいた。事前打ち合わせ等で確認していたため、次第に沿って概ねスムーズな運営が出来た。
- ④ 配付資料は各班で対応することとしており、レジュメのみ準備した。レジュメ以外の資料の有無は班により対応状況は異なるが、資料がないとテーマに関する状況がわからず発言しにくい、という意見や自治振興区との調整の中でも、資料があった方がよかったという意見があった。テーマ設定の趣旨説明のため、自治振興区で資料を準備された会場もあった。総合的に考えると資料はある程度必要であるということになる。
- ⑤ 議員手持ち資料として、テーマに関する各種計画書や報告書、広報等資料を準備したので、大いに活用できた。
- ⑥ 会場レイアウトについては、全会場ともこれまで同様の教室形式の配置とした。報告会では教室形式は有効であったが、意見交換を行ううえでは車座や円卓など、全員が活発に発言できるようなフラットな配置がよいとの意見があり、検討が必要である。コロナ感染防止対策も含め、会場の広さや人数等の制限があるが、自治振興区等と調整を図りながら、より有効なレイアウトを再考していく。

(6) 周知方法について

【実施状況】

- ① 行政文書（10/20発行 全世帯へ開催チラシを配布）
- ② 住民告知放送・市議会ホームページへの掲載
- ③ 議員の積極的な働きかけとSNS等の活用

検証結果

- ① 11月の開催時期に合わせて、10/20行政文書により全世帯へ開催チラシを配布するとともに、自治振興区にも開催チラシを送付し協力を仰いだ。語る会の開催希望団体の募集欄をチラシの中に設けたが、各地域での開催日が混在してわかりにくい、といった意見をいただいた。

- ② 住民告知放送は開催日の前日夜、当日の朝を基本として、該当地域で放送を行った。団体の開催については、参加対象者は団体の会員に限られ、住民告知放送の対象にならないことを丁寧に説明し、団体内での周知に努めていただくよう、申し込み時や事前調整で確認しておく必要がある。
- ③ 市議会ホームページへ各地域の開催日、テーマ等掲載し周知するとともに、SNS等を活用するなど、議員による積極的な発信を行った。
- ④ 上記の周知方法を含め、他の有効な方法について今後も検討し、活用していく。

(7) 新型コロナウイルス感染防止対策

【実施状況】

- ① 消毒液の設置、座席間隔の確保、マスクの着用（発言はマスク着用で行う）
- ② 手指消毒、咳エチケット及び検温への協力と参加者名簿への記入を参加者へ依頼

検証結果

- ① 感染防止対策に参加者全員のご協力をいただいた。

(8) 災害等による開催可否の対応

【実施状況】

- ① 災害等による開催可否の判断は開催時間の2時間前に決定するとしていたが、該当する会場はなかった
- ② 延期・中止等の対応をあらかじめ調整しておく

検証結果

- ① 今年度は開催可否の判断が必要な会場はなかったが、開催時期により対応が必要となる。引き続き、自治振興区等と連携を図り、調整を行う。

(9) 報告及び公表

【実施状況】

- ① 語る会の実施内容は、議員全員協議会において班の代表者より報告を行い、議員間で共有・意見交換を行う
- ② 語る会の成果や効果、今後の課題等を検証
- ③ 語る会で出された市民の意見・要望等への対応は、班長会議において対応方針を決定し、一般質問や予算審査等に活用した。
- ④ 最終報告書は市議会ホームページへ掲載
- ⑤ 語る会の実施概要は、しょうばら市議会だよりへ掲載（2/21発行）

検証結果

- ① 各会場での実施内容について、議員全員協議会で班長より概要報告を行い、議員間で意見交換し情報共有を行った。

- ② 各班の報告書は記録者において整理し、班内で内容確認を行った後、速やかに議長へ提出された。この報告書とアンケートをもとに、「班別報告書」「参加者アンケート集約」に取りまとめ、各会場での参加状況、意見交換内容、質疑、市政・議会への意見・要望などが見える化して、議会運営委員会・議員全員協議会において検証を行った。
- ③ 語る会は意見交換を主とするものであり、その場で出された要望等は執行者へ送付して対応することは、今年度から行わないこととした。答弁を行った内容は個人の意見も多く、語る会での発言に留め、議会としては対応しない。会場で出された様々な意見・要望は、委員会で取り上げるべきものと判断すれば委員会へ諮って対応、議員個人として扱う必要があるとすれば一般質問や予算審査等で取り上げていく。このように、班長会議において市民の意見・要望等への対応方針を決定し、今後も引き続き取り組んでいく。
- ④ 最終報告書は市議会ホームページへ掲載するとともに、自治振興区等へ送付し、今年度のまとめとした。
- ⑤ 語る会の開催状況、意見交換の内容を抜粋して、2/21発行のしよばら市議会だよりへ掲載した。計画では号外を発行することとしていたが、スケジュールや紙面の不足により実施できなかった。開催時期により、市議会だよりへの掲載時期の見極めが必要であり、その都度広報委員会へ諮り検討するが、号外が発行できるよう目指し取り組む。また、語る会で出された意見・要望等について、委員会活動や一般質問等で取り上げた内容は、適宜、市議会だよりへ掲載し公表していく。

(10) その他（語る会の留意事項等）

【実施状況】

- ① 意見交換に重点を置いた内容とし、一議員として、テーマや意見交換での発言を積極的に行った。
- ② より多くの参加者が発言できるよう配慮した。
- ③ 議会に対する意見・要望には結論を出さず、市民意見の聴取を目的とした意見交換に努めた。
- ④ 執行者に対する意見・要望にも、執行者に代わって受け付けない対応とした。
- ⑤ 議員派遣手続きを行った。

検証結果

- ① 語る会は、市民と議員の意見交換に重点を置いた内容で実施するものである。これまで、議会全体としての活動状況や予算等の審議状況等を報告するという形から私見は述べないこととしていたが、語る会では、一議員として、設定されたテーマや意見交換での発言を積極的に行い、市民との意見交換を活発に行うこととして取り組んだ。
- ② 参加者の発言は、より多くの方が発言できるよう、進行役が振り分けや調整を行ったが、同じ方が何度も発言されることもあり、運営上苦慮した。
- ③ 参加者から、議会に対する意見・要望や質問等あった場合、それに対する回答や結論を出すのではなく、市民意見の聴取を目的とした意見交換に努めた。具体的に対応が必要なものについては、制度として、請願・陳情の手続きがあることを議会としても周知する必要がある。
- ④ 執行者に対する意見・要望等は、市民の多様な意見を把握する手段として聴取に努め、執行者に代わって受け付けることなく、今後の議会としての意思決定に反映させていくこととした。
- ⑤ 公務であるため、議員派遣手続きを令和3年9月定例会において行った。